

13	豊橋	多米小学校	イダ ジュンコ 名前 井田 淳子
分科会番号	8	分科会名	音楽教育

友達と関わり合いながら、よりよい響きを求めて声の出し方を工夫する子の育成
6年音楽「聴いて 感じて ぼくたちの響きって『最高』～和音の響きを感じよう～」の実践を通して

1 主題設定の理由

歌が好きな子どもたちは、活動制限のかかるコロナ禍においても、体育館や渡り廊下など、フィジカル・ディスタンスを保ちながらのびのびと歌ってきた。曲想の変化に合わせた歌い方を工夫する姿からは、より豊かな音楽表現をすることにおもしろさを感じているように見える。しかしながら、友達の歌声を聴き合いながら合唱する経験が少ないため、響き合う歌声の美しさや歌声をどのように重ねてよいのかを理解できていない。二部合唱や三部合唱に取り組んだものの、お互いの声を聴こうとしなかったり、歌声を響かせようと一方的に強く歌ってしまったりして、合唱をつくりあげることに対して歯がゆい思いをしてきている。そこで、本題材では、常時活動において、自分たちの響きを振り返り、検証し、改善する取り組みを行う。その中で子どもたちは、美しい和音の響きをつくるためのポイントに気づいていくだろう。そして、グループ活動を取り入れ、全体でも関わり合う場を多く設定することで、新たな視点に気づき、さらに仲間と声の出し方を工夫できると考え、この研究に取り組むことにした。

2 研究目標および計画

(1) 目ざす子ども像

・友達と関わり合いながら、よりよい響きを求めて、声の出し方を工夫する子

(2) 研究の仮説

【仮説1】

常時活動において、タブレットを使って自分たちの響きを振り返り、検証し、改善する活動を繰り返すことで、響きをよくするポイントに気づくことができるだろう。

【仮説2】

三部合唱の練習において、関わり合いの場を設定し、新たな視点に気づくための支援を講じれば、よりよい響きになるように声の出し方を工夫するだろう。

(3) 研究の手だて

仮説1に対する手だて

① 一ア 和音の響きの美しさや心地よさを感じるための常時活動「ハーモニータイム」

和音の響きに目を向け、和音が響く美しさや心地よさを体感できるように、リコーダーによるカデンツ演奏『リコーダーカデンツ』、即興ハーモニーづくり『積み上げハーモニー』、三部合唱『こげよマイケル』の3つの活動を毎時間の導入時に、常時活動として取り組む。

① 一イ 響きを客観的に捉えるためのイラスト「ハーモニー3兄弟」

自分たちの響きを客観的に捉えられるように、音程・音量のバランス・歌詞に応じた歌い方(三声を響かせる3ポイント)を「ハーモニー3兄弟」のイラストを用いて可視化する。

① 一ウ 自分たちの響きを聴き、検証する「ハーモニーチェッカーズ」

手だて①一イ「ハーモニー3兄弟」を基に、三声の響きを聴き取り、検証する役を「ハーモニーチェッカーズ」とする。「ハーモニーチェッカーズ」の意見から、三声の響きを改善していく。

仮説2に対する手だて

② 一ア 関わり合いの場の設定 「ハーモニー会議」

2つのグループの三部合唱を聴き合い、よかったところやアドバイスを共有する。音量・音程・強弱といった視点を示して板書することで、改善点を明確にして練習できるようにする。

② 一イ 新しい視点(歌詞に応じた歌い方のよさ)に気づくための歌い方の比較

歌詞に応じた歌い方に着目したタイミングで、歌詞に応じた歌い方を試す。すると、「輝く」「遠い」では、想像する星空のイメージ、星の輝きが異なり、歌い方に違いが出てくる。そこで、2つの歌い方を入れ替えて歌うことで、より歌詞に応じた歌い方のよさを体感できるようにする。

(4) 抽出児について

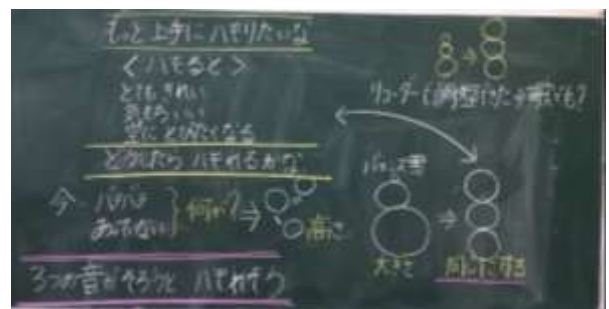
A児は、曲想に合う音楽表現の工夫を考えることが好きで、意欲的に取り組んでいる。事前のアンケートでは、「合唱はいろいろな声が重なることできれいになるから好き。」と記述している。しかし、「合唱で気をつけていること」に対しては、「自分のパートを意識して歌う。」と記述している。このことから、合唱の響きのよさは感じているものの、他のパートの歌声を意識しておらず、歌声をどのように重ねていくとよいのかを理解していない。また、1学期最後の授業の振り返りでは、「音はけっこうはずれていたけど、1学期最後に合唱できて楽しかったです。」と記述している。このことから、自分たちの響きが美しく響き合っていないことを自覚しているととらえる。そこで、仲間と関わり合いながら、響きをよくするポイントに気づき、よりよい響きを求めて声の出し方を工夫してほしい。そして、自分たちでよりよい響きをつくりあげたことを実感してほしい。

(5) 題材構想 (最終ページに記載)

3 研究の実際と考察

(1) ハモるポイントを知りたいな(第2時) (仮説①一ア、イ)

第1時の「ハモリ体験」を通して、「もっと上手にハモりたい」という思いをもった子どもたちは、第2時でハモるポイントを見つけることにした。いきなり三声を重ねることは難しいので、初めはリコーダーによるカデンツの演奏で三和音の響きに親しんだ。吹き慣れ、和音の響きに変化が現れたところに、教師が「ハモると、どんな感じがするかな。」と問うと、子どもたちは、「とてもきれい。」「気持ちいい。」「空を飛びたくなる。」と答えた。その後、再度リコーダーをふき、響きを聴くことで、「ハモる」感覚の土台を、音と言葉で共有することができた。次に、3つのグループに分かれ、〈ド〉〈ドレミ〉〈ドレミファソ〉の歌声を重ね合わせていく『積み上げハーモニー』に取り組んだ。リコーダーと違い、美しい響きをつくることができず、子どもたちは口々に「合わない」と言い始めた。そこで、教師が「何が合わないのかな。」と問いかけた。そして、「音の高さが合わない」「音の大きさが合わない」などの子どもの意見をもとに、和音の形を板書した【資料1】。子どもたちは、可視化された和音を見て、「今は〈ド〉の音が大きすぎて変だったんだ。〈ド〉を小さくしよう。」と具体的な改善策を見出し、試すことができた。その結果、「3つの音の高さと大きさがそろろうと、ハモりそう。」という見通しをもつことができた。



【資料1 和音を可視化したことで、気づきを与える板書】

その後、スクリーンに映し出した星空を見ながら、中心教材『星の世界』を鑑賞した。鑑賞後の感想交流を通して、「星空のようなきれいな響きで三部合唱をしたい。」という思いをもった。

(2) 『星の世界』をグループで合わせてみたよ(第3～5時)(仮説①—アイウ)

第3時以降では、『リコーダーカデンツ演奏』『積み上げハーモニー』に、三部合唱『こげよマイケル』を加えて、常時活動として取り組んでいった。和音を可視化したイラストを「ハーモニー3兄弟」と名づけ、活用することにした。はじめは教師が「今の響きは、ハーモニー3兄弟と比べてどうだった。」と問いかけていたが、第4時からは、子どもたちが、響きを聴き検証する「ハーモニーチェッカーズ」となり、子ども主体で改善していった【資料2】。響きの変化や高まりに興味や実感がもてるように、教師は「ハーモニータイム」での響きの様子を掲示した【資料3】。

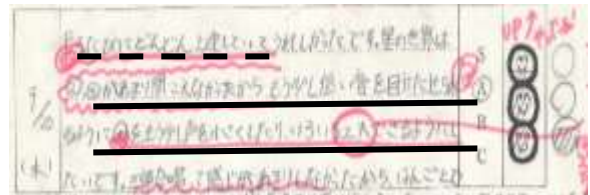


【資料2 響きを検証、改善する様子】



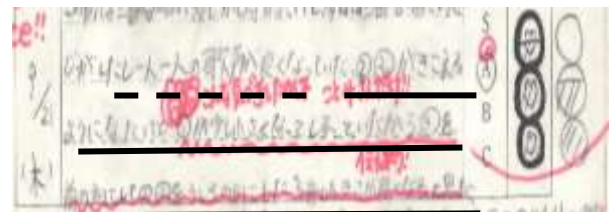
【資料3 響きの様子を表した掲示物】

『星の世界』の練習では、パート練習とグループ練習を繰り返しながら、三部合唱に慣れていった。第3時では、主にパート練習に取り組んだ。A児は主旋律の①パートを選び、正しい音程を覚えようとして何度も歌った。はじめは①パートの歌声が入った練習用音源を使って歌っていたが、慣れてくると、伴奏のみの練習用音源に変え、音程が取れるようになったのかを確認しながら歌うようになった。最後に、②③パートを交えて歌声を合わせると、「下のだんご(②③パート)が聞こえないよ。」など「ハーモニー3兄弟」を使って話し合う姿が見られた。A児の第3時の振り返りでは、「②③があまり聞こえなかったから、もう少し低い音を目立たせるように①をもう少し小さくしたり、いろいろ工夫できるようにしたい。」と記述しており【資料4】、音量のバランスに目を向け、他パートを意識した歌い方をしようとしていると考えようになった。

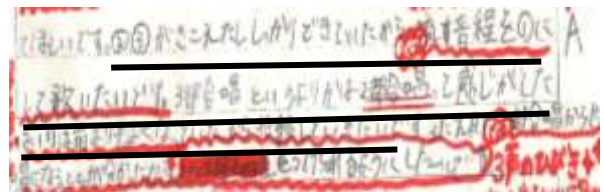


【資料4 A児の振り返り記述(第3時)】

第4時では、パートごとに自分たちの音程を3回確認した後、グループで歌声を合わせた。「主旋律は音程が取りやすいから、小さめに歌おう。」と声を掛け合う姿が見られた。その後、まだ音程をとることができていない②や③パートの歌声が入った練習用音源を使って歌い始めた。A児を含む①パートの子どもたちは、手で耳を抑えたり離したりして、他パートにつられないようにしながら、音程に気をつけて歌う姿が見られた。最後は、伴奏のみの練習用音源を使って、歌声を重ねた。第4時の振り返りでは、「②③が聞こえるようになったけど、①が少し小さくなってしまったから、①を前の方にしたら、音の大きさがよくなると思う。」と記述している【資料5】。このことから、第3時の響き(音量のバランス)を改善するために、声の出し方を変えて歌ってみたことと、そのことで音量のバランスが崩れてしまっても、隊形についての工夫を考え、試行錯誤する様子が見えてくる。第5時では、「ハモだんごのバランスが前よりよくなってきた。」と友達と話し、自分たちの響きを振り返りながら歌う姿が見られた。第5時の振り返りでは、「②③がきこえたし、しっかりできていたから流す音程(練習用音源)を①(伴奏のみ)にして歌いたいです。」と記述している【資料6】。このことから、第4時の響き(音量のバランス)を改善するために、声の出し方や隊形を工夫して、よりよい響きに近づいたことが考えられる。また、音程を取れていない②や③パートを気にかけて練習してきた姿から、他パートを意識して歌うことができるようになったと考える。続いて、「3段目に三部合唱からせい唱になることがわかったから、2段目と差をつけるようにしたい。」と記述しており【資料5】、三部合唱が正しい音程で、音量バランスもよく響き合ってきたからこそ、合唱と斉唱の響きの違いを実感できたのではないかと考える。



【資料5 A児の振り返り記述(第4時)】



【資料6 A児の振り返り記述(第5時)】

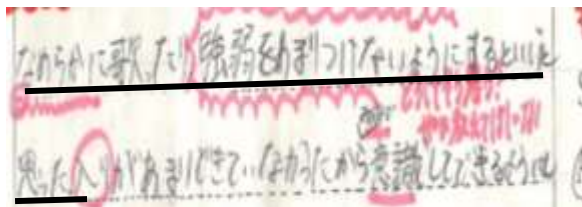
(3) お互いの『星の世界』を聴き合ったよ(第6～8時)(仮説②—アイ)

第6時では、2つのグループで、お互いの合唱を聴き合い、よかったところやアドバイスし合う「ハーモニー会議」を行った。音程・音量のバランス・その他といった3つの視点を示して板書していった

【資料7】。グループ練習では、どちらのグループも、1音ごとの和音の響きに目を向けていたが、相手の演奏や、客観的に自分たちの演奏を聴くことで、強弱をつけるよさに気づいた。その後、アドバイスをもとに再びグループ練習を行った。A児は、第6時の振り返りで「なめらかに歌ったり、強弱をあまりつけすぎない方がいいと思った。」と記述した【資料8】。このことから、友達の意見を



【資料7 ハーモニー会議①の板書】



【資料8 A児の振り返り記述(第6時)】

を受け、新たな工夫(強弱)をし、強弱に対してこだわりをもったことが考えられる。授業の終わりに、「強弱をつけて、歌がよくなった。でも、もっと星空みたいな響きにならないのかな。」というつぶやきがあった。そこで、第7時では、「どうすれば、『星空の世界』が表せるのかな」の問いに対して、2回目の「ハーモニー会議」を行った。「なめらかに歌う」や「透き通る声で歌う」など、曲想に合わせた歌い方や歌声の意見が出てきた【資料9】。



【資料9 ハーモニー会議②の板書】

【グループの話し合い記録】

- C1:「きらめく」ってどんな感じ?
- C2:「輝く」と同じ感じ?
- C3:きらきらとか輝く。
- C1:他にある?
- C4:「星の世界よ」は、落ち着いた感じ。
- C5:「まばたくあまたの」は、盛り上がる、山場じゃない?
- C2:大きく。
- C1:これぐらい?
- C3:しっかりのぼす?ボリュームは?
- C1:一回やってみよう。気づいたらまた言おう。
- C: ~2番全体を歌う~
- C1:「まばたく星座」練習しよう
- C3:「まばたく」大きくね。
- C4:もっともっと大きく。
- C6:「宇宙の広さ」のところは?ふわふわ?
- C5:「宇宙を広くする」だから、広がるように歌ってみる?
- C: ~後半部分を歌う~
- C6:「まばたくあまたの」よかったよね。
- C2:もう一回。
- C1:最初から大きい声出してよ。
- C: ~後半部分を歌う~
- T: ~巡回してきて、一緒に周りで歌う~
- T: いいじゃん!
- C2:「玉か黄金か」ってどんな感じ?
- C6:「黄金」…どんな感じがいいんだ?
- T: 宝石みたいだよってことだよ。
- C1:じゃあキラキラ?
- T: 時間になるよ。ラスト1回歌ってみよう。

そこで、教師が拡大した歌詞を提示し、「実際に歌ってみようか。」と提案した。子どもたちは、「輝く夜空の」「遠い世界よ」「宇宙の広さを」の部分を使った。「輝く夜空の」部分を歌った後、教師が「どんな星空なのかな。」と問い、子どもたちは星空を想像した。「きらきら…明るい声かな。」と歌詞に応じた歌声に目を向け始めた。「輝く夜空の」の歌い方を何度か試した後、「遠い世界よ」部分を歌った。教師が「あれ、歌い方を変えているの。」「さっきの「輝く」のときのきらきらした歌い方がすてきだから、「遠い世界よ」の部分もきらきらする感じでやってみて。」と促した。子どもたちは、「遠い世界よ」部分を「輝く夜空の」部分と同じように、明るい声色を意識して歌った。すると、「遠い世界よ」の歌詞に、きらきらは合わないよ。」「もっと落ち着いた方が合う。」と言いだした。「宇宙の広さを」部分でも、歌詞に応じた歌い方や、他の歌詞に応じた歌い方の比較を行った。そうして歌詞に応じた歌い方を意識した子どもたちは、その後、グループ練習に戻り、積極的に歌詞に応じた歌い方について話し合った【資料10、11、12】。

【資料10 グループでの話し合い記録】

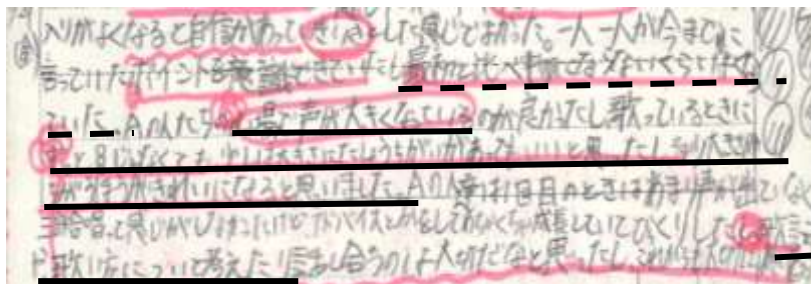


【資料11 拡大した歌詞に工夫を書き込む様子】



【資料12 書き込み後の拡大譜】

A児は、第7時の振り返りで「今までに言っていたポイントを意識できたし、最初と比べ物にならないくらいよくなっていた。」と記述した【資料13】。強弱、音量のバランス、歌詞に応じた歌声や歌い方についても記述しており、響きのポイントに気づいたり、響きの高まりを感じたりしていることがうかがえる。



【資料13 A児の振り返り記述(第7時)】

(4) 6年生全員で歌声を重ねたいな(第10時) (仮説①—アイウ)

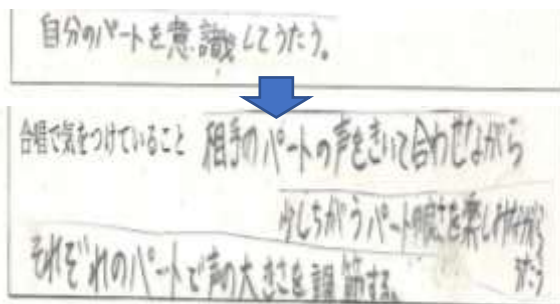
他クラスの『星の世界』の三部合唱を聴き比べたり、6年生全員で合唱をしたりする「ハーモニー集会」を行った。学級での授業と同じく「ハーモニーチェッカーズ」が響きを聴き、検証した。200人を超える人数で音量のバランスなどを調整し、よりよい響きをつくることができた。ハーモニー集会後、A児は「それぞれのクラスで響きに特徴があっておもしろかったし、みんなで三部合唱できてよかった。多米っ子発表会では、これまでに考えたコツや歌い方を生かせるようにしたい。」と話した。これらのことから、響きを聴き、検証し、改善することを続けて、さらによりよい響きに向かおうとしていると考える。

4 研究の成果

仮説1について

「ハーモニー3兄弟」は、「ハモ3」「ハモだんご」とそれぞれが呼びやすい言い方になり、自分たちの響きを振り返る際、共通の言語として使われていった。常時活動だけでなく、『星の世界』の練習においても、自分たちの響きを振り返り、検証し、改善する姿が見られた。振り返りでは、イラストを用いて、自分たちの響きの状態や改善策を表す児童もいた。

A児の実践後のアンケートには、「合唱で気をつけていること」に対して、「相手のパートの声をきいて」や「声の大きさを調整する」などの記述があることから【資料14】、他のパートの歌声を意識してどのように歌声を重ねたらよいかを理解していると考えられる。また、振り返り記述【資料4、5、13】からは、響きの変化や高まりを実感する姿がうかがえる。このことから、手だてア、イ、ウは有効であったと言える。



【資料14 A児の記述 実践前と実践後の比較】

仮説2について

関わり合う場「ハーモニー会議」を設定したことで、強弱や曲想に合う歌い方、歌詞に応じた歌い方など、新たな視点に気づくことができた。歌詞に応じた歌い方の比較では、歌詞に応じた歌い方のよさを実感した子どもたちは、グループでの話し合いで積極的に自分の意見を言い、たくさんの工夫をすることができた。手だてア、イは有効であったと言える。

5 今後の課題

三声を響かせる3つのポイントに気づき、工夫することはできたものの、同時に意識することは難しかった。初めて本格的な合唱練習に取り組んだ子どもたちにとっては、もう少し練習が必要だった。今後は、本実践での学び(三声を響かせる3ポイント)を掲示するなどして、全体の響きを意識しながら合唱する機会を増やしたい。

また、どうしても音程や音量に意識が向き、『星の世界』の曲だからこそ、星空のようなきれいな響きで三部合唱したい。」という子どもたちの願いが途切れてしまうことがあった。そこには、練習量の問題だけでなく、目ざす「星空のようなきれいな響き」のイメージ共有が甘かったことや、教師自身が和音の響きを意識するあまり、強弱や歌詞に応じた歌い方に目を向けた子どもの意見をうまく取り上げられなかったことが考えられる。教師自身が「聴く」力や響きに対する感覚を高めたり、合唱指導における手だてを学んだりして、響きと音楽表現を同時に指導する力を身につけ、子どもとともに、よりよい合唱づくりに励んでいきたい。

題材構想(全10時間:本時7/10)

・二部合唱が楽しかったな。もっとハモリたいな ・ハモってみたい。どんな感じなんだろう

「ハモリ」体験で「ハモリ」を楽しもう①※1

【体験①】Youtube 動画『ハーモニーチャレンジ』で遊ぼう

・つられてしまふよ ・もう一回やりたいな ・リベンジしたら歌えたよ ・もっとハモリたいな

【体験②】友達とプチ・ハモリ体験で遊ぼう(『積み上げハーモニー』『こげよマイケル』)

【ハモれたよ(積み上げハーモニー)】

・音を伸ばしているよ、ハモリを感じたよ
・二声から三声になると、響きが広がったよ
・最高学年として、かっこよくハモリたいな

【難しいな(こげよマイケル)】

・曲になると難しいな
・合わせるの難しいな
・仲間と協力して合わせたいな

学年目標『最高!!!』

※3

(お話広場の活用)

・最高学年としての行動

・仲間と協力

『最高』な姿で、三部合唱でハモリたいな

ハモるポイントを知りたいな②※4

【ハモると】
・とてもきれいだよ
・きらきらした感じがしたよ
・気持ちいいな
・響きが広がる感じがしたよ

ハーモニータイムから見つけよう

・正しい音程を取ると、きれいな音になるね
・音量がそろうと、気持ちいい感じになるよ

『星の世界』から見つけよう(鑑賞)※5

・「輝く」の歌詞みたいに、きれいな歌声だね

・夜空の星みたいに、三部合唱の響きが美しいね

それぞれのパートの音量のバランスを考えて、正しい音程で歌うときれいに「ハモリ」そうだね

『星の世界』を『最高』ハーモニー(=きれいな声で三声を響かせたい)にしたいな

「星の世界」をグループで合わせてみたよ③④⑤※6

【音程が取れてきたよ】

・自信がついて、声を出せるようになったよ

【合わせるの難しいな】

・合わせるとつられてしまうところがあるよ

歌えているか聴いてほしいな。他のグループの歌も聴いてみたいな

【ハーモニー会議】お互いの『星の世界』を聴いて思ったよ⑥⑦(本時)⑧

聴き合い(かかわり合い)※7

・CDの歌声と全然違うけど、何が足りないのかな ・どうしたら『最高』ハーモニーに近づけるかな
・出だしはきれいな声でいいね ・②パートの音量が大きいよ ・だんだん声が強くなる人がいるよ

『最高』ハーモニーにするために、工夫したいな

グループ練習

【ばっちり音程を取りたいな】

・変な響きにならないように、正しい音程を取りたいな
・斉唱から三部合唱になるところの音程をばっちり取って、響きの広がりを伝えたいな

【音量のバランスを意識したいな】

・みんなの声を聴いて、同じ大きさに合わせたいな
・①パートが主旋律だから、少し大きな声を出して目立たせたらどうだろう

【歌詞に合わせた歌い方で歌いたいな】

・最後まで優しい声で歌い切りたいな
・歌詞に合わせて歌い方を変えているよ
・「輝く夜空」はどうやって歌うと、「輝く夜空」の雰囲気伝わかな

周りの声を聴いて、自分の声を工夫したら三声が響いたよ

6年2組全員で『星の世界』を響かせたいな⑨

【ばっちり音程を取りたいな】

・苦手な部分は、自分のパートの友達の声聴いて歌おう

【音量のバランスを意識したいな】

・パート間の人数のバランスが変わったから、出だしの音で大ききの調整をしよう

【歌詞に合わせた歌い方で歌いたいな】

・人数が増えても、歌詞からきれいな星空をイメージして歌いたいな

6年2組全員で歌ったらもっと響きを感じたよ。6年生全員で歌ったら、どんな響きになるのかな

6年生全員で『星の世界』を響かせたいな(『最高』ハーモニー集会)⑩※8

・他のクラスの響きもとてもきれいで『最高』 ・8年生全員で歌ったら響きが広がって感動したよ

ぼくたちの響きって『最高』。これからもみんなの声を聴いて、声を重ねていきたいな

※1 自分たちで歌声を響かせてハーモニーをつくることへの関心が高まるように、二つの「ハモリ体験」に取り組む場を設定する。

※2 和音の響きに目を向け、和音が響く心地よさを体感できるように、「ハーモニータイム」を設定する。

※3 自分たちが目指す具体的な姿のイメージを共有できるように、学年目標『最高』について考える場として、お話広場を活用する。

※4 自分たちの響きを客観的に捉えられるように、音程・音量のバランス・歌詞に応じた歌い方を「ハーモニー3兄弟」のイラストを用いて可視化する。

※5 イメージを膨らませ、表現意欲が高まるように、夜空の星の映像をスクリーンに映す。

※6 自分たちの歌声をすぐに振り返り、よさや改善点を見出すことができるように、タブレットの録音機能を活用する。

※7 歌詞に応じた歌い方のよさを体感できるように、『こげよマイケル』に合わせた歌い方と『星の世界』に合わせた歌い方の2つを試し、比較する活動を行う。

※8 三声の響きを感じながら歌えたことを実感するために、『最高』ハーモニー集会の場を設定する。

【常時活動】ハーモニータイム※2

・ハモるって、気持ちいいな

・友達と声や音を重ねるのって、楽しいな